

会社説明会資料

2013年3月5日



三光産業株式会社
SANKO SANGYO CO.,LTD.

(証券コード:7922)

目次



● 会社概要 3～13

4. プロフィール

5. 当社の売上構成

当社の製品紹介

6. ①スマートフォン向け製品

7. ②デジタルカメラ向け製品

8. ③パソコン向け製品

9. ④その他

10. 生産拠点

11. 当社の強み

12. 業績推移

13. 業種別売上高の推移

14. 既存・新規事業の売上高

● 2013年3月期 第3四半期決算報告 15～19

16. 第3四半期決算概要

17. 1～3Qトピックスと通期計画について

18. 四半期業績推移

19. 四半期貸借対照表

● 今後の展開 20～27

21. 事業環境と重点施策①

22. 事業環境と重点施策②

23. タッチパネル関連ビジネスの取り組み

24. 新市場の開拓

25. 中国・光華産業の状況

26. 海外展開の今後の施策

27. 中期展開の柱

28. 新中期数値目標

29. 株主還元・資本政策について

会社概要

プロフィール



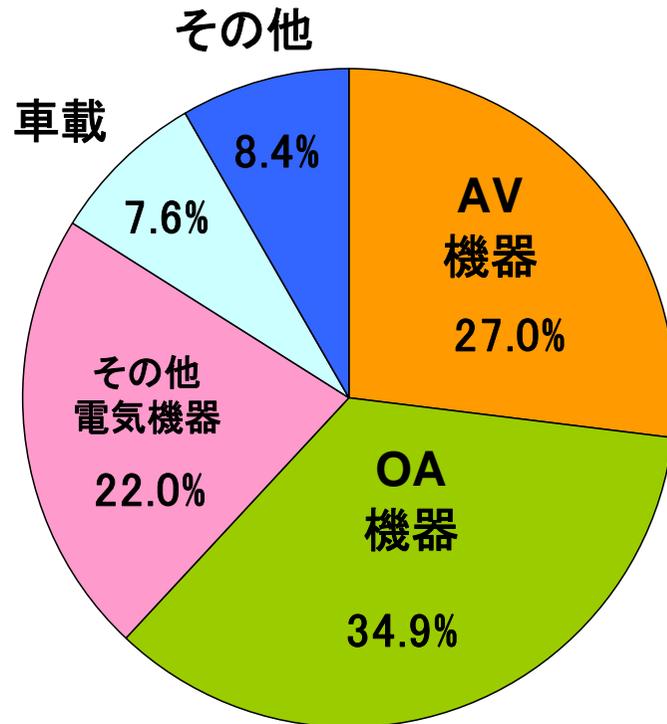
- 商号 三光産業株式会社
- 本社 東京都渋谷区神宮前3-42-6
- 代表者 代表取締役社長執行役員 遠藤 幹雄
- 設立 1960年4月1日
- 事業内容 接着剤付ラベル・ステッカーの製造販売
- 資本金 18億5,075万円(2012年12月末)
- 関係会社 三光プリンティング株式会社
サンコウサンギョウ(マレーシア)
光華産業有限公司(香港)
燦光電子(深圳、光華産業の子会社)
- 従業員数 198名(単体)、695名(連結)(2012年12月末)

当社の売上構成

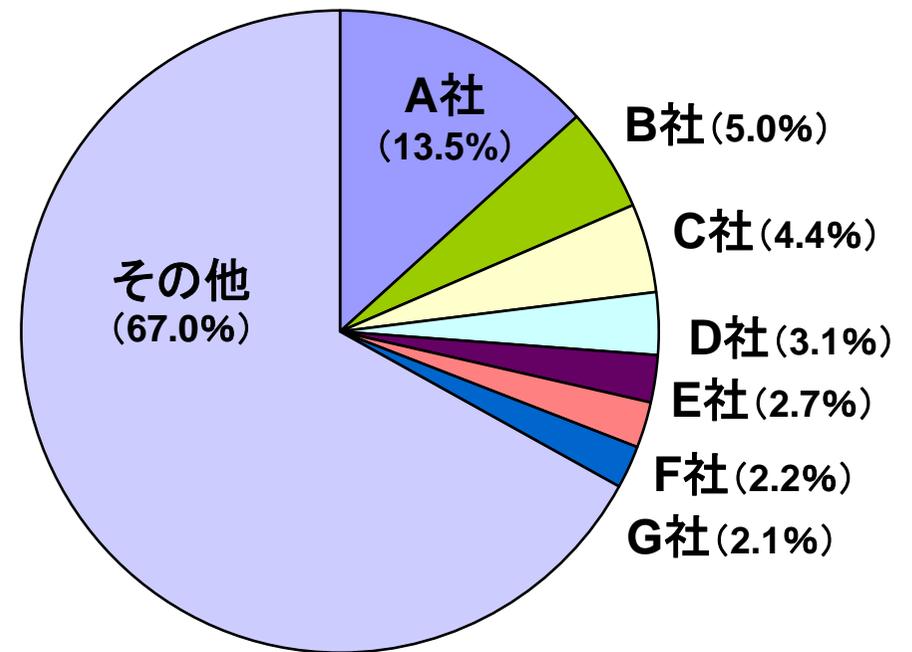


2012年3月期

業種別売上構成(連結)



顧客別売上構成(単独)



NEC TDK アルプス電気 ソニー 凸版印刷 パナソニック
日立製作所 富士ゼロックス 富士フイルム 三菱電機等
約1000社(敬称略) (五十音順)

当社の製品の紹介①



スマートフォン向け製品



加飾飛散防止フィルム

- 加飾飛散防止フィルム
- ガラス加飾パネル
- HC PET加飾パネル
- プラスチック加飾パネル
- ASF
- OCAテープ

内部機能部品

定格ラベル



防水シート



※画像表示パネルの「印刷段差吸収技術」において、特許を取得

加飾飛散防止
フィルム



ガラス加飾パネル



HC PET
加飾パネル



プラスチック
加飾パネル



ASF



OCAテープ



当社の製品の紹介②



デジタルカメラ向け製品



当社の製品の紹介③



パソコン向け製品



当社の製品の紹介④



電池シール・広告関連(その他)



生産拠点



従業員数2012年12月現在：生産実績12年3月期 単位：百万円

	所在地	印刷方式	建物面積 m ² (従業員数)	生産実績
方南工場	東京都杉並区	シール主体	1,211 (15)	358
千曲川工場	長野県佐久市	輪転機主体	2,406 (10)	286
川越工場	埼玉県川越市	オフセット主体	4,578 (29)	616
大阪工場	大阪府東大阪市	シール・シルク主体	948 (15)	436
マレーシア	セラゴン州 シャーラム市	シール・シルク・輪転機主体	2,986 (152)	410
中国深圳	中国深圳市	シール・シルク・輪転機主体	2,200 (323)	1,040
三光プリンティング	東京都板橋区	シール主体	611 (21)	185

※大阪工場は賃借物件

当社の強み



1. 大手電機メーカーグループとの取引が中心
2. 顧客の様々な要望に対応する体制
 - ① 幅広い印刷方式・加工技術を装備
 - ② 外注を使うコーディネーション力
 - ③ 積極的な海外展開

約4万種類の製品

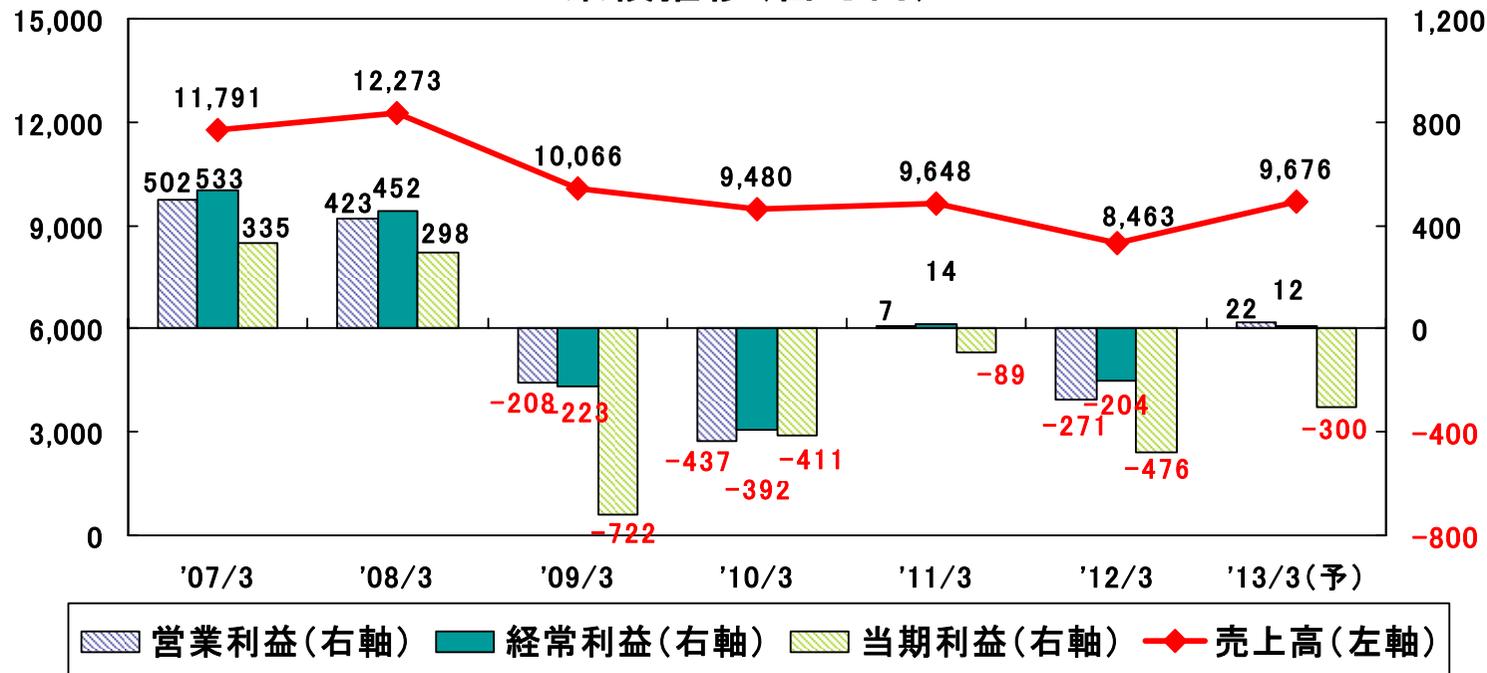
1,000を超える取引社数

業績推移



- 前12/3期は、海外への生産移管が進行するとともに、東日本大震災やタイの洪水の影響によるセットメーカーの減産が響き、受注高・売上高ともに急減。コスト削減に取り組んだものの、減少分を吸収しきれず、営業赤字となった。
- 今13/3期も海外への生産移管は続き、受注環境は厳しいと考えられるが、今後の当社の成長を支える事業として強化してきたタッチパネル関連ビジネスが結実。特別損失の計上により最終赤字ながら、営業・経常段階では黒字転換の見通し。

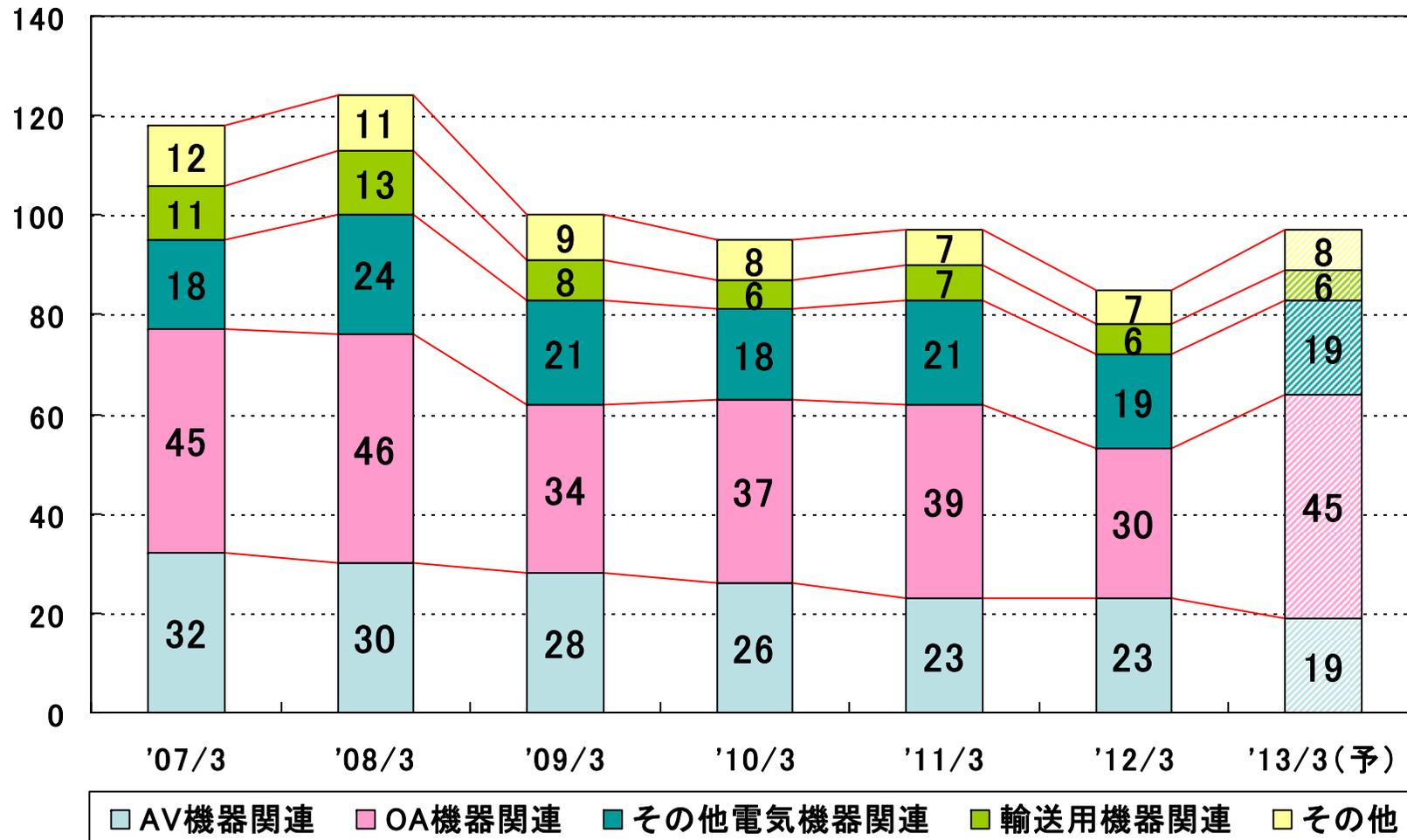
業績推移(百万円)



業種別売上高の推移



単位: 億円

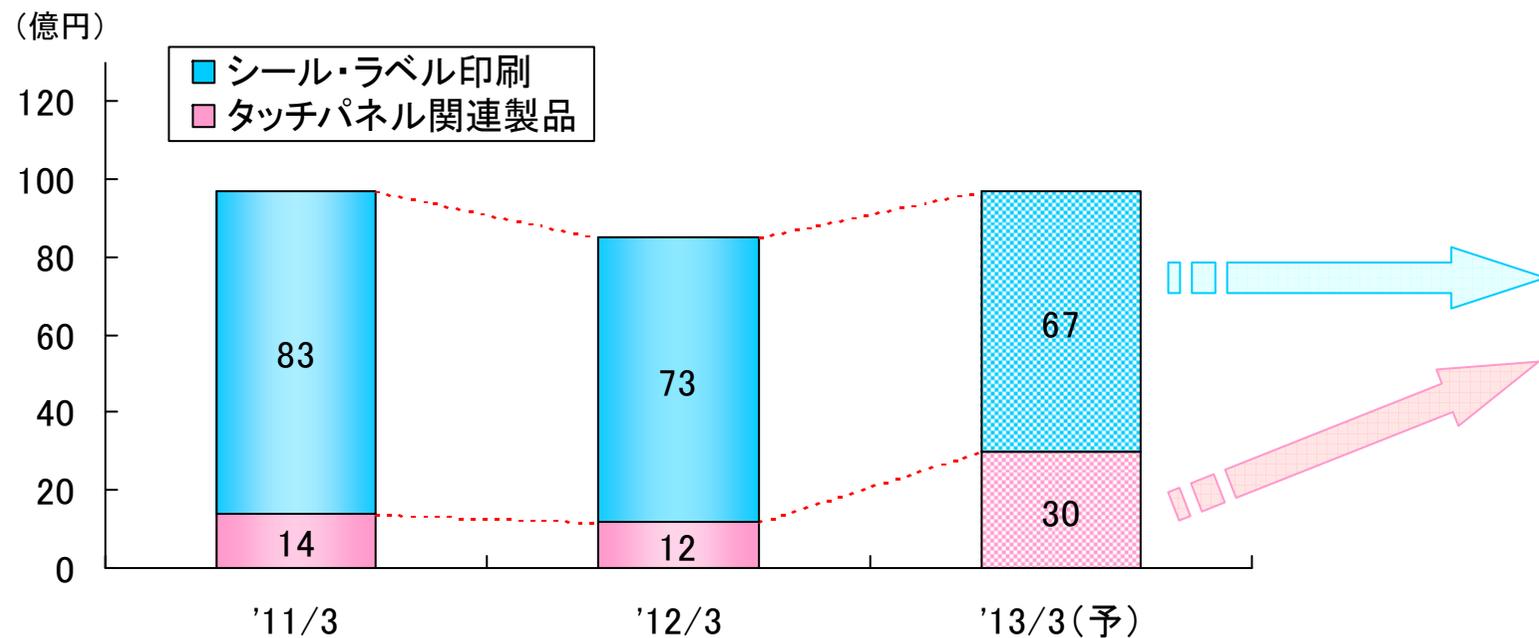


既存・新規事業の売上高



シール・ラベル印刷とタッチパネル関連製品の売上高推移

— 昨年より本格的に取り組んだタッチパネル関連製品がようやく収益貢献
今後の当社の成長の原動力として期待



2013年3月期
第3四半期決算報告

第3四半期決算概要



単位:百万円, %

	12/3期 1~3Q累計		13/3期 1~3Q累計			13/3期 通期計画		
	金額	構成比	金額	伸長率	構成比	金額	伸長率	構成比
売上高	6,138	100.0	8,032	30.9	100.0	9,676	14.3	100.0
AV機器	(1,296)	(21.1)	(1,337)	3.2	(16.7)	(1,900)	▲16.9	(19.6)
OA機器	(2,398)	(39.1)	(4,252)	77.3	(52.9)	(4,500)	52.1	(46.5)
その他電気機器関連	(1,492)	(24.3)	(1,467)	▲1.7	(18.3)	(1,900)	2.0	(19.6)
輸送用機器関連	(466)	(7.6)	(451)	▲3.3	(5.6)	(600)	▲6.5	(6.2)
その他	(483)	(7.9)	(523)	8.4	(6.5)	(776)	8.5	(8.1)
売上総利益	1,075	17.5	1,248	16.0	15.5	1,672	16.4	17.3
営業利益	▲190	▲3.1	24	—	0.3	22	—	0.2
経常利益	▲176	▲2.9	57	—	0.7	12	—	0.1
(当期)純利益	▲225	▲3.7	▲185	—	▲2.3	▲300	—	▲3.1

1～3Qトピックスと通期計画について



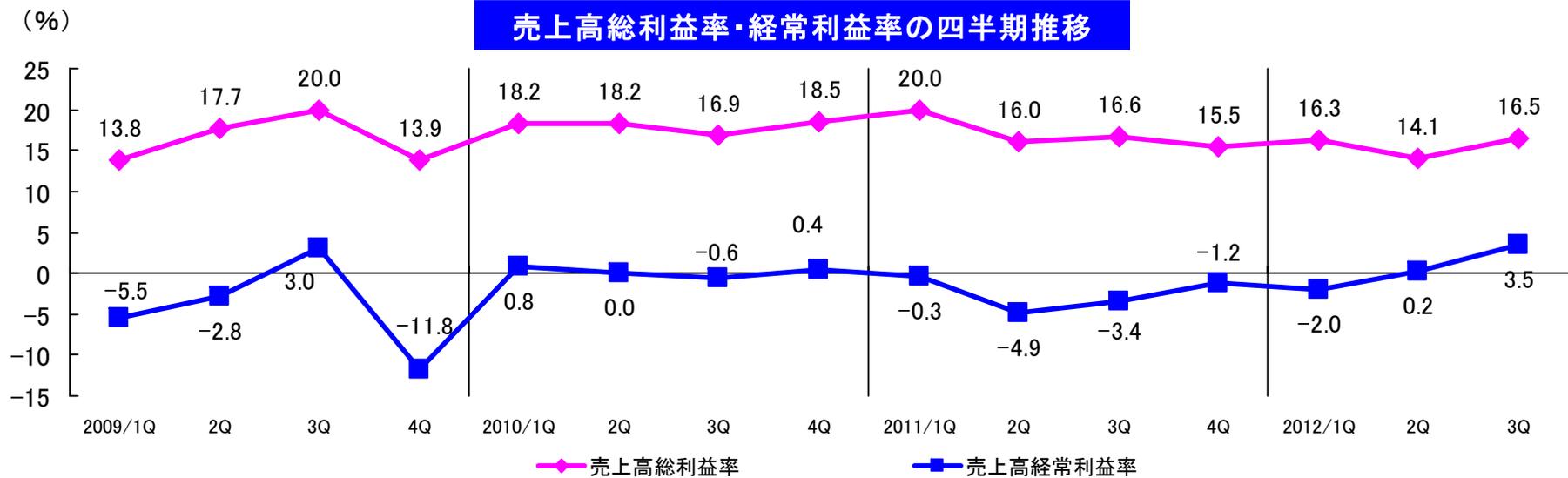
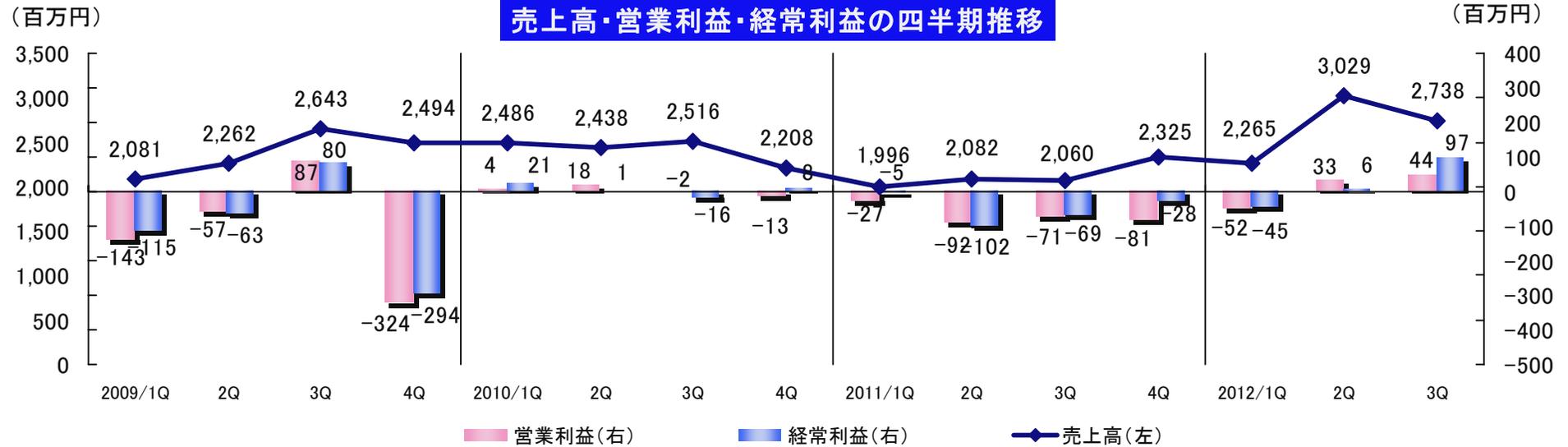
1～3Q決算のポイント

1. シール・ラベル印刷のような従来ビジネスが引き続き厳しい事業環境にある中、新規市場の開拓や、需要が高まっているタッチパネル関連製品の営業活動を積極的に展開。スマートフォン向け大型案件の寄与もあり、売上高は前年同期比130.9%の8,032百万円となった。
2. タッチパネル関連製品は、従来ビジネスに比べ低利益率であるため、売上高総利益率は低下したものの、売上高の急拡大により、営業利益、経常利益は黒字転換を果たした。しかし、希望退職の実施による割増退職金や投資有価証券評価損を特別損失として計上したため、四半期純損失185百万円を計上した。

通期計画について

1. 3Q時点ではタッチパネル関連製品の急拡大により、売上・利益ともに期初計画を上回るペースで推移。
2. 例年(前12/3期を除く)4Qに売上・利益とも落ち込む傾向があることなども考慮して、通期計画については当初予想を据え置く。連結売上高9,676百万円、経常利益12百万円、当期純損失300百万円を見込む。

四半期業績推移



四半期貸借対照表



	12/3 第3四半期末	12/3 期末	13/3 第3四半期末
流動資産	(6, 782)	(6, 883)	(6, 436)
現金及び預金	2, 813	2, 784	2, 136
売上債権	2, 762	2, 845	2, 910
棚卸資産	1, 027	1, 056	1, 118
その他流動資産	179	198	271
固定資産	(4, 489)	(4, 305)	(4, 062)
資産合計	(11, 271)	(11, 188)	(10, 499)
流動負債	(2, 160)	(2, 309)	(1, 886)
買入債務	1, 743	1, 845	1, 531
その他流動負債	416	463	355
固定負債	(564)	(538)	(469)
退職給付引当金	435	421	414
その他固定負債	128	116	55
負債合計	(2, 724)	(2, 847)	(2, 356)
株主資本	(8, 877)	(8, 626)	(8, 397)
その他の包括利益累計額	(▲549)	(▲509)	(▲476)
少数株主持分	219	223	222
純資産合計	8, 547	8, 340	8, 143
負債純資産合計	(11, 271)	(11, 188)	(10, 499)

単位:百万円

今後の展開

事業環境と重点施策①



足もとの事業環境

国内

- 円高は一段落しているが、取引先の海外移管は継続しており、それに伴い受注も伸び悩んでいる。

海外

- タイ洪水による顧客の生産調整は完了。正常化に向かっているが、業者選別の目は厳しくなった。
- 反日運動が激しくなった昨秋以降も、タッチパネル関連中心に中国での需要は旺盛。一方で東南アジアに目を向けるメーカーの動きも顕在化

対 策

国内

- 不採算部門の撤退・縮小を進めるとともに、タッチパネル関連ビジネスに資源を集中し、海外拠点との連携を強化。
- 希望退職募集による人員の適正化は、来14/3期から効果が出る見込み。

海外

- 積極的な営業展開による、国内受注減少のカバー。
- 受注の機会損失を防ぐための拠点強化。1月に蘇州に営業所を開設。旧正月後に現地スタッフを採用し本格営業を開始。

事業環境と重点施策②



中長期の事業環境見通し

- 取引先の海外生産移管と部材の現地調達動きは今後も継続。
- 従来型のシール・ラベル事業による市場の拡大余地は限定的ながら、当社の成長機会はあると考えている。
- 一方タッチパネル関連ビジネスについては、さらに顧客開拓余地大きく、多様なビジネスチャンスがある。



対策

国内

- 将来的な統廃合も念頭に入れ、さらに生産体制の見直しを継続。
- 医療分野など新市場開拓の取り組みを強化。

海外

- 長期的には中国蘇州の貢献に期待。
- マレーシア(営業力強化、生産能力の向上)を含め、需要拡大が見込まれる東南アジアにおける展開を加速。

タッチパネル関連ビジネスにおいては、営業－生産(外注を含む)－物流といったバリューチェーンの確立が不可欠。拠点間の連携ができるよう社内基盤を構築する

タッチパネル関連ビジネスの取り組み



静電容量式タッチパネルの気泡を防ぐ段差吸収技術を確立し量産対応し、パテントも取得。受注攻勢に打って出る体制が整った。

携帯電話 スマートフォン

- 単品で15億円規模の大型案件を獲得。今期の一時的業績寄与要因となるため、来期当該案件解消によるマイナスを埋める新規受注の獲得が課題。
- 現時点で国内携帯3機種を受注を獲得(4~5千万円/月規模)。またサイクルの長いグローバル携帯の受注獲得に向け大手メーカーへの営業活動を展開。

デジタルカメラ

- タイ洪水からの立ち直り底は脱出したものの、市場は依然停滞。
- 現在5千万円/月規模で1機種に納入。さらに5月から同規模の案件の受注が決まっており、来期への貢献が期待される。

カーナビ

- 2~3千万円/月規模のアクリル製品の受注を2件獲得。4月から量産化の予定。
- 携帯やスマートフォンと異なり4~5年続く案件であるため長期的に収益貢献が期待される。⇒中国との継続的・安定的な連携が課題。

その他

- 携帯ゲーム機向けはゲーム機の販売不振が続き低迷から脱せず。
- 一方、大手液晶デバイスメーカーに食い込み、タブレット関連での新規受注獲得を目指している。

新市場の開拓



医療機器向けシール

- ・ 業績への貢献度は小さいものの、受注は堅調であり、今後も積極的に取り組む。

非接触ICカード用「きせかえシート」

- ・ アミューズメント・玩具景品等オリジナル商品強化のひとつとして取り組んでいるものの、伸び悩み。引き続き営業活動を強化。

3Dレンチキュラー

- ・ 従来 of 他社製品に比べて完成度が高く、売り込み先から高い評価を得ている。
- ・ 店頭POP、ノベルティシールなど、販促品としての営業活動を展開。

その他

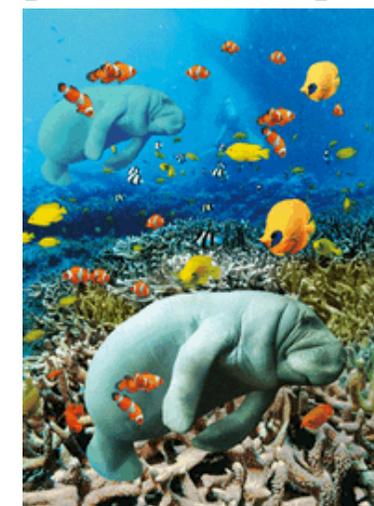
- ・ LED照明用絶縁シートは、メーカーの販売苦戦により低迷。

引き続き人員を
増強し営業強化!!

【きせかえシート】



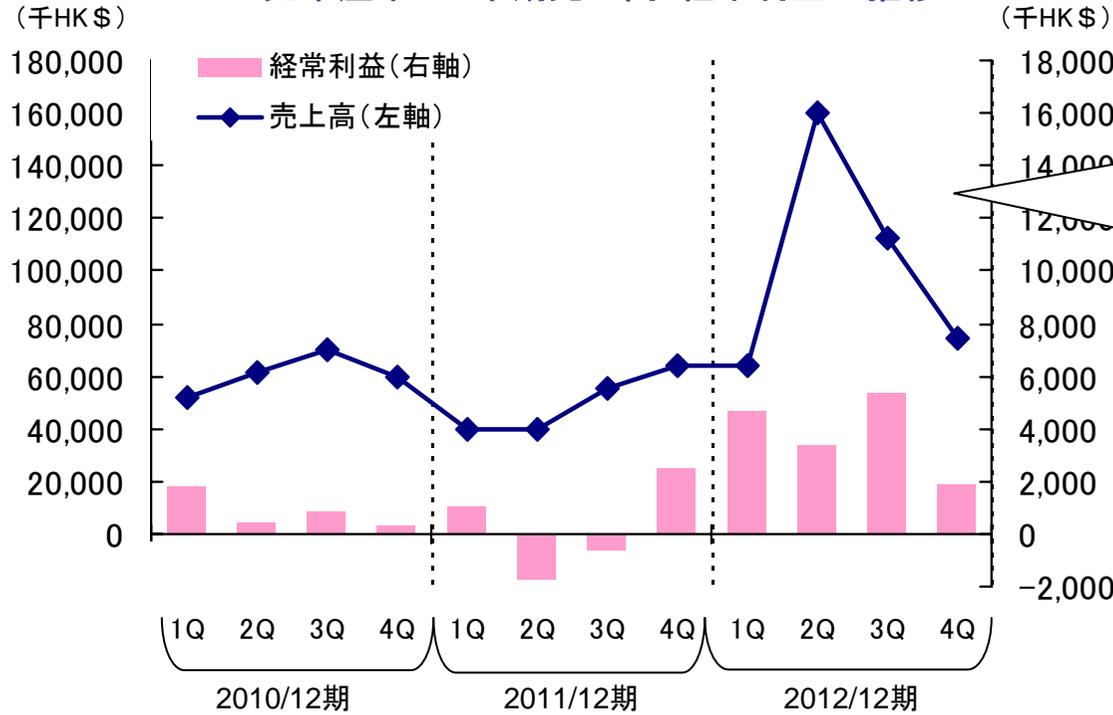
【3Dレンチキュラー】



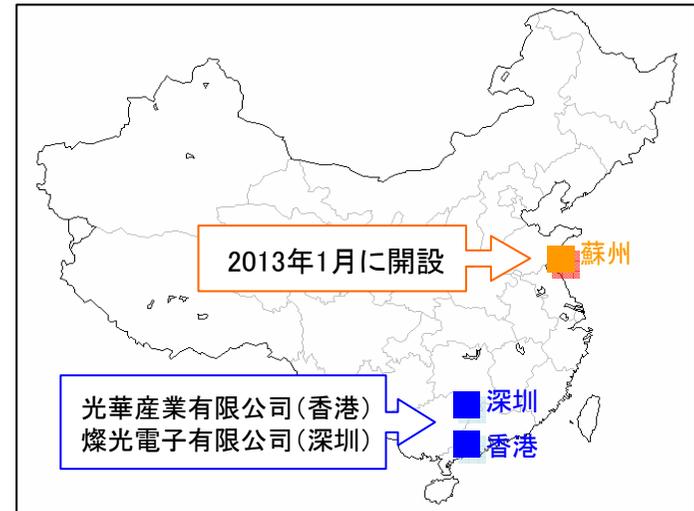
中国・光華産業の状況



光華産業 四半期売上高・経常利益の推移



- タッチパネルの需要増加により売上拡大。利益も安定化。
- 2Q、3Qに一時的な大型案件を受注したことにより、売上が急増。

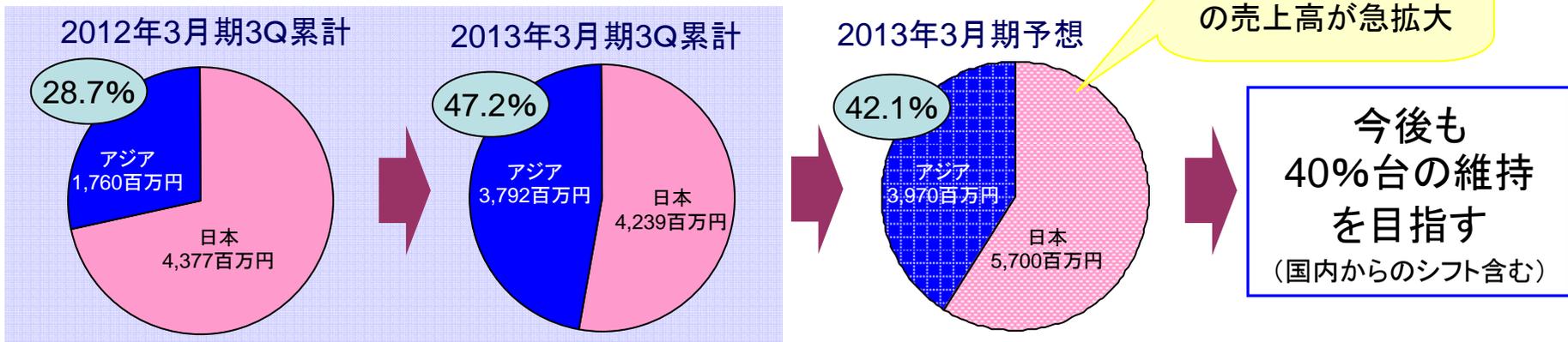


海外展開の今後の施策



現状

- 高騰を続ける人件費や反日感情の高まりなどマイナス要因はあるが、引き続き中国での需要は活発。タッチパネル関連製品を中心に高稼働が続いている。
- またコストコントロールも効き、利益面でも安定しつつある。



今後の展開・課題

- 中国は、外注先を含めた国内事業所との連携による受注強化を図る。
- 新規開設した蘇州営業所は、華中地域に進出する日系メーカーへの食い込みにより、長期的に受注拡大を期待。
- 一方で、今後大きなマーケットになるとと思われる東南アジアの拠点強化が急務となっており、既存のマレーシアの活性化も含め、営業・生産の増強を図る。

中期展開の柱



- **従来型のシール・ラベル印刷は緩やかながらも成長を目指す**
⇒ 取りこぼしなく営業活動を実施
- **タッチパネル関連製品が中長期的にも成長ドライバー**
⇒ 国内各事業所・海外・外注の緊密な連携構築が課題
- **新規市場の開拓を強化**
⇒ 1月に10名規模のプロジェクトチームを立ち上げ

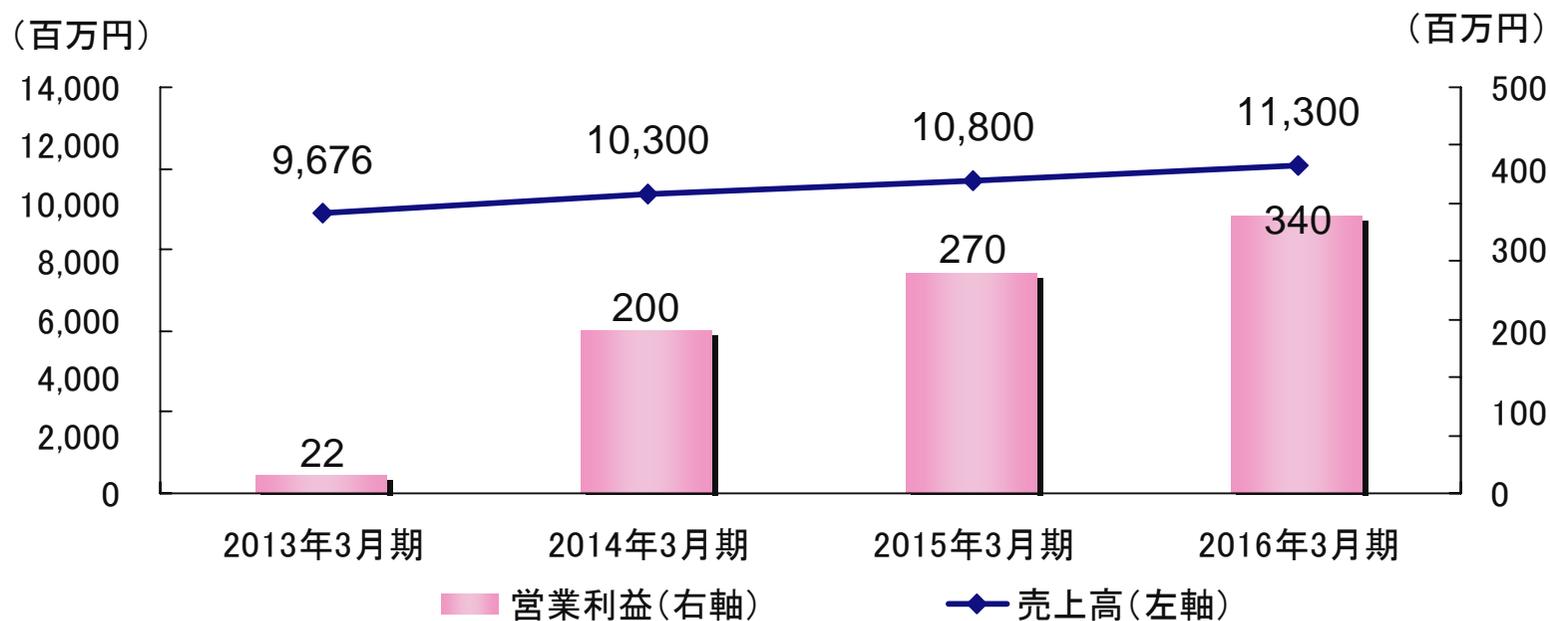
従来掲げていた目標(売上高年率3%成長、営業利益率5%)について

- ・売上高はタッチパネル関連製品の拡大が続くため、中期スパンでは目標を大きく上回る伸びを期待。
- ・営業利益率は、利益額は伸長するものの、当該ビジネスの利益率は従来ビジネスに比べ劣るため、営業利益率目標の達成は非現実的と考える。

新中期数值目標



	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
売上高(百万円)	9,676	10,300	10,800	11,300
営業利益(百万円)	22	200	270	340
(営業利益率)	(0.2%)	(1.9%)	(2.5%)	(3.0%)



株主還元・資本政策について



■ 配当について

08/3期実績	13円	(13円の安定配当を継続)
09/3期実績	7円	(最終損失にともない減配)
10/3期実績	10円	(当初予定 普通配13円 ⇒ 普通配7円、50周年記念配3円)
11/3期実績	7円	} 収益状況・財政状態等を考慮し、7円配を継続(予定)
12/3期実績	7円	
13/3期計画	7円	

→ 収益力の強化に努め、08/3期まで実施していた13円配当の早期復活を目指します

本資料に掲載されている三光産業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から三光産業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

IRお問合せ

取締役経理部長

高橋 光弘

TEL: 03-3403-8134

E-mail: m-takahashi@sankosangyo.co.jp